

1995年(平成7年)3月15日(水曜日)

機 械

日本環境全
日保

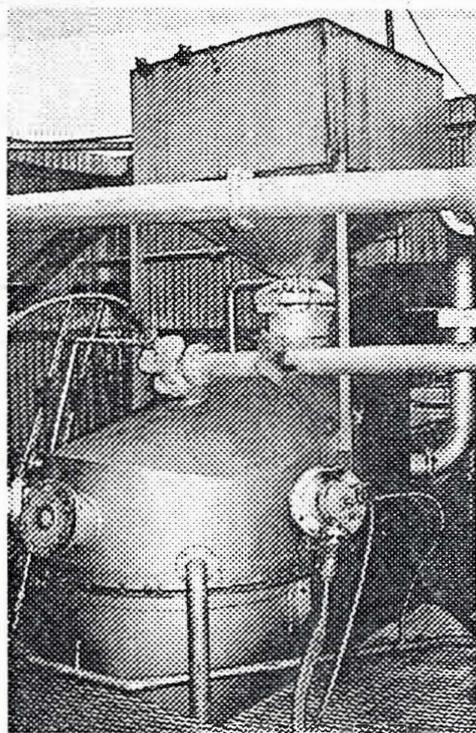
溶融炉を大幅小型化

ゴミ処理システム開発

溶融炉メーカーの日本環境保全(茨城県牛久市、杉山静素社長)は日本で最も小さい溶融炉を使ったゴミ処理システムを開

発したと発表した。粗大ゴミからゴミ類、生ゴミの焼却ができるうえ、それぞれの焼却灰を建材などの原料として利用できる

スラッジに変えることが可能。地方自治体のほか、団地や再開発地域のゴミ処理施設向けに売り込む。



開発したシステムは「JBO-1021」。粗大ゴミ焼却炉と

タイヤ・ゴム焼却炉、生ゴミの

焼却に使うロータリーキルン

(回転式)焼却炉、小型溶融炉

写真、廃煙処理装置で構成す

る。粗大ゴミ焼却炉やタイヤ・

ゴミ焼却炉などから出た焼却灰

は集めて、溶融炉に新たに投入

する。価格は処理能力日量五十

トの標準タイプで十六億円。

溶融炉は炉壁にセ氏三〇〇

度の高温に耐えるセラミックス

を採用、小型化した。その結果、

三千人分のゴミ処理施設を一千

平方メートルの敷地に設置できる。

ご注意

過去に当社が原情報を著作した新聞・雑誌等の記事は、画面上の閲覧のみが可能です。これら記事は過去に公開されたものですが、現状で利用する際には著作権等が発生する場合があります。利用をご検討の方は当社にご相談願います。

日本環境保全株式会社